

平成19年度第2回シニアパワー部会

日 時 平成19年9月27日(木)午後6時30分

場 所 川崎区役所7階第1会議室

出席委員(敬称略)7名

原田歩、猪熊俊夫、金岩勇夫、中村紀子、魚津利興、荒井敬八、星川孝宜

議題及び公開・非公開

(1) 審議テーマに係る課題について(公開)

(2) その他(公開)

傍聴人数 1人

午後 6時30分 開 会

1 開 会

事務局 <会議開催の事前公表、会議録の開示、会議の記録としての写真撮影を説明、傍聴の遵守事項>

2 部会長あいさつ

部会長 前回の部会で部会名を決めたが、「シニアパワー」という非常に力の込められた名称で意気込みを感じている。

前回各委員から課題を出していただいたので、今日は課題解決に向けた具体的な取り組みを審議したいと考えている。昨年度同様、区民、行政、区民と行政の協働のそれぞれで何ができるのかといった視点で、具体的に検討して欲しい。10月16日の全体会議で具体案を報告したいと思う。

事務局 <本日のスケジュールの説明、配布資料の確認>

3 議題

(1) 審議テーマに係る課題について

部会長 事務局から資料を説明してもらう前に、TVKで放送された番組のビデオを放映する。多摩川の二ヶ領せせらぎ館を中心に活動しているNPO法人の取り組みを紹介した内容である。

〔ビデオ放映〕

事務局 今見ていただいたビデオは4月28日の「シニアの日」に開催された「団塊世代地域デビューセミナー」の様子である。このセミナーは、シニア世代の人が実際の活動を見て、聞いて、体験して行動につなげるきっかけにするイベントである。

事務局 <配布資料を説明>

部会長 資料には、地域コミュニティの充実のために3つの取り組みの方向性(案)が記載してある。これについて意見や具体的な取り組み案などを出して欲しい。

委員 どうしても60歳を過ぎると引っ込み思案になり、誘われても何となく面倒くさいという気持ちになってしまう。そういった人に参加してもらうために趣味のようなものをきっかけにしたらよいと思う。お祭りのときに、チネチッタ通りで商店街と町内会の人が集まってお神輿を飾るが、このようなこともコミュニケーションを取る1つ方法だと思ふ。

委員 若い人と年輩の人とでは、まちに対する想いが全然違う。このことを認識する必要があると思う。お祭りを例に挙げると、年齢層ではっきりと3つに分かれていると思う。若い人は目立ちたい、シニア世代より上の人には古さや歴史を強調する。そのため、シニア世代が参加しづらい。

シニア世代の人は押しつけられることを嫌う。既存のものにはあまり集まらないので、新しいものをつくりながらシニア世代の人が自ら進んで実行するような方法を考えなければならない。シニア世代の人は秀でた能力、特に機械に関しては卓越しているが、個人で活動する傾向があり、集団での取り組みは難しいと思う。

委員 川崎市の地域福祉計画の策定に参加しているが、シニアのパワーを活用しようというのが大きなテーマの1つになっていて、いろいろ議論がされている。

新総合計画の平成18年度進捗状況を見ると、シニア能力地域活用システムの構築は、目標を大きく上回って達成されているという評価だった。ワークショップを開催したり、シニア世代の情報を一元的に提供するホームページ「かわさきシニア応援サイト」を開設したり、シニアライフ設計のための相談会を開催したりしているが、あまり市民に浸透していないと思う。

市民に浸透させるには、川崎区独自の効果的な施策を立ち上げ、多彩なメニューで地域と触れ合うきっかけをつくるのが大事だと思う。シニア世代の人は、それぞれいろいろ

いろなキャリアや人生経験、価値観を持っているので、それぞれ興味があるものに参加してもらおうようにすればよいと思う。一度に多くのメニューを実施するのは難しいので、1つか2つ試行的に実施してみる。具体的に継続できるものを実行して、それを足がかりにするとよい。何かやろうと言っている間に区民会議の任期が終わってしまうと思う。

させられているというのではなく面白そう、楽しそうというものでないと参加してくれない。参加してもらうことによってコミュニティができ、そのコミュニティがいろいろなものに取り組んでいく。何かの目的のために集まるのではなく、最初はコミュニティをつくることを目的にして、参加すると楽しそうという印象を与えることが必要だと思う。

委員 個人的には、活動的な女性の夫には家を守っててもらえると助かると思う。

地域のためということでは難しいが、楽しいことであれば参加してもらえと思う。先日私の住んでいる地域でゴルフ大会があったが、30歳代から80歳代の人まで80人ぐらい参加したとのことである。女性の参加もあり、地域のいろいろな人と顔を合わせることができたようである。

今、地域は消防団の入団者がいないことに困っている。若い人は出勤がかかっても仕事や外出していることが多いが、50歳代から60歳代の人には地域にいることが多い。地域防災から総合訓練まで全てにかかわるのは大変だが、できる範囲の個別の活動に参加してもらえば、消防団は組織がしっかりしていたり、やりがいがあったりしてよいと思う。

市民ミュージアムはシニア世代が遊べてよい場所だが、あまり利用されていない。スポーツジムなどにはシニア世代が大勢いるが、そういう場所に世話をしてくれる人がいないと集団になるのは難しいと思う。シニア世代が多く集まるような場所、例えば大規模な書店などで、仲間同士で集まったり、目的を持ったりすることを発信したらよいと思う。誰かに感謝されたり、少しお小遣いになったり、楽しそうだったり、お酒が飲めたりと最終目的がわかるような会には参加してくれると思う。

部会長 今事例紹介があったゴルフ大会は、若い人も高齢者もみんな楽しもうということだと思う。最近、高齢者は高齢者、若い人は若い人と世代や性別ではっきり分かれてしまうことが多いが、老若男女が一緒に楽しめた方がよい。

委員 私は「市民健康の森海風の森をMAZUつくる会」で活動しているが、ここ2、3年で入会した人はみんな60歳を超えている。その年代が、今一番パワーがある。市の地域環境リーダー育成講座を受講した会員がいるが、その人がいろいろな人に声を掛け

ていて、あっという間に友人が増えていく。女性の行動力があるリーダーがいると活動があっという間に広がる。

活動に参加してくれるのは現場で仕事をしている人である。いわゆるホワイトカラーの人を引き込むのは難しいと思う。現場で仕事をしている人は汗をかく喜びを知っている。遊びから活動に参加しても遊びだけでは済まなくなって活動が広がる。アメフトW杯の際、商店街に葉ケイトウを飾ったが、今度はパンジーを植えようという話が持ち上がっている。

誰か声掛けの上手な人が中心になると、あっという間に20人から30人ぐらいの人が集まる。シニア世代が興味を持っているような内容の講座などを行政が企画して、その講座などに集まった人に対し、活動への参加を促せばよいと思う。

団体は活動資金が不足しているので、行政に場所の提供などの支援して欲しい。団体が総会や親睦会を開催するような場所を行政が提供していない。横浜市は提供している。

委員 休日に妻と外出すると、妻は地域に友人がいて顔を合わせるとあいさつをするのだが、私は「あの人はどこの人か」といちいち聞くような状態である。確かに会社を退職したときの地域デビューは大変だと思う。

川崎市には団塊の世代が7、8万人いるようだが、今は63歳ぐらいまで雇用されるので、この年代の人が一度に地域に戻ってくるわけではないと思う。シニア世代の人が地域に戻るようになった場合、先ほどのビデオのようなイベントを実施し、その際に「初心者大歓迎」と大きく打ち出せば参加しやすいと思う。団体のリーダーによっても違うと思うので、リーダーを育てることも1つの方法だと思う。趣味の集まりでも、音楽や絵画などの趣味を持っている人がいろいろいると思う。そういう人が集まるように手助けをして、何かやってみようということになればよいと思う。

川崎区の特徴に関係するような取り組み実施し、それがきっかけになってコミュニティの充実が図れればよいと思う。

委員 いろいろなことを一度に実施するのは難しいので、1つに絞って取り組んだらよいと思う。以前にダンス教室やカラオケ教室を実施したことがあり、大変好評だった。難しくなくて夫婦で一緒に楽しめるものを1つ考えたらよいと思う。

委員 富士見公園で朝6時と6時30分にラジオ体操が行われている。シニア世代の人も参加しているが、真ん中には行かず輪の外側、後ろの方で体操している。そして、体操が終わるとすぐに帰ってしまう。このように、シニア世代も参加し始めているのだから、終わった後に懇親ができるようにしたらよいと思う。

具体的な案としては、東扇島の川崎マリエンでマラソン大会を実施し、終了後は川崎マリエンの広場でバーベキューを開催したらどうか。海底トンネルは自動車しか走行できないが、それを1車線だけでも走れるようにする。普段できないことをできるようにすれば人は集まってくると思う。東扇島東公園の砂浜でもよい。今のシニア世代は走ることが好きだ。朝、多くの人が走っている。

委員 地域の行事に集まった人に参加を呼びかければよいと思う。

委員 やり方次第で名物大会になる。多摩川マラソンだってあるのだから。

委員 茨城県立健康プラザ管理者の太田先生が、住民参加の介護予防としてシルバーリハビリ体操の普及をしようと、シルバーリハビリ体操の指導士を育てている。シニア世代の人は認定を受けたり、資格を取ったりすることに熱意を持っている。茨城県の人口は約300万人だが、現在のところ1,265人の指導士を養成したそう。この免許は県知事名で出していて、県下の全市町村に指導士を配置して介護予防のためのストレッチ体操を行っている。市民から活動が始まり、行政がそれに参加するようになった。県知事自らが指導士の資格を取った人に証明を出そうと参加し、うまくいっている。

部会長 具体的な取り組みとして、マラソン、リハビリ体操、夫婦で楽しめるような娯楽という意見が出たが、各委員がいろいろな提案をすれば、それが結果的に多彩なメニューになると思う。

委員 先ほどラジオ体操の話があったが、それに集まっている人たちに「こういう指導士の研修を実施する」ということを広報すれば、参加してくれる人がいるかも知れない。

部会長 区民会議として具体的に何か実施しようという意見があったが、それについて意見を出して欲しい。

委員 シニア世代だけでなくいろいろな人が参加してこそコミュニティであり、参加してみようという気持ちにもなると思う。対象をシニア世代に絞ってしまうと、1、2回の開催で終わってしまうと思う。老いも若きも集まれる、孫も連れてこられるようなものがよいと思う。

市民祭りが川崎区で開催されているが、もっと区民の手による手作り感があるイベントで、新たな場づくりや新しいものに挑戦するような内容のものがよいと思う。

委員 前年度と同様に、提案するだけでなく必ず1つは具体的な取り組みを実施したいと思う。いくつも実施できないので、本当に実施したいもの1つに絞った方がよいと思う。実際に実施することが非常に大事だと思う。

部会長 これまでの議論では、具体的に何かを実施しようということで意見が一致していると思う。実施するものをどのように絞り込むかという問題はあるが、今日は各委員の考えをいろいろと発言して欲しい。

委員 団塊の世代より少し上の世代で既に活動されている人を参考にしたらよいと思う。それらの人があまり活かされていないようだが、例えば子育てや教育の分野で活かせると思う。前回の部会でも、役に立ちたいという熱意を持っている人が大勢いるという委員の発言があったが、その気持ちを活かせる場が必要だと思う。楽しいことをしながら人との出会いがあり、新しいものが生まれるという期待感もあると思う。

委員 まずは人が集まらないと始まらない。人が集まったときに参加の呼びかけをしないと、単にチラシを配布してもそれだけで終わってしまい広がらないと思う。何かのイベントを実施して一緒に汗をかけば「今度、こういうことを一緒にやりましょう」ということになると思う。

委員 市民が行政に提案すると、行政はそれを全て受けなければいけないとってしまう。基本的な部分は行政に支援して欲しいが、市民は全てを行政にやってもらおうと思っているわけではない。先日、大雨で多摩川河川敷のグラウンドが使えなくなったが、その際、例えば使用料を免除するかわりに、利用者にグラウンドの清掃などをしてもらえば、早くグラウンドが使えるようになる。行政も「できません」と規則どおりの対応だけでなく、臨機応変に対応して欲しい。そうすれば、行政任せにならないで市民の力の活用にもなると思う。

委員 グラウンドの利用には事前に登録が必要なのか。登録が必要ならば、登録団体が自らグラウンドをきれいにしてもよいのではないか。

マラソン大会の提案があったが、マラソンができるほどの体力がある人ばかりではないので、そういう人のために歩きコースを設けるなどの対策も必要だと思う。

委員 東扇島は場所の存在感があるから、相当の人数が集まると思う。マラソンや競歩、あるいは「親子で歩こう」といった遊歩を実施すればよいと思う。10キロコース、5キロコースなど、いろいろな人が参加できるようにし、そこでいろいろな呼びかけをす

ればよい。

委員 人を集めやすいイベントと、集まった人を把握する組織があると広がっていくと思う。

委員 市民祭りは老若男女、子どもから高齢者まで延べ数十万人の来場者があり、非常によいPRになると思う。11月には市民活動フェスティバルも開催されるが、区内の団体に無料で場所を提供すれば、よいPRの場になると思う。チラシを配布してもなかなか見てもらえないが、イベント会場で実際に活動内容を見せながらPRすれば、興味を持ってくれる人が相当いると思う。

委員 まず、東扇島でイベントを実施すれば、それをきっかけに広がりができると思う。

委員 1回で終わらせないで、継続させなければならない。

委員 チネチッタ商店街ではハロウィンを実施している。最初に提案があったときはあまり盛り上がりがないかと思ったが、とにかく1回やってみようと思い開催してみた。ところが、来年も開催して欲しいという反響が多く、毎年開催するようになった。我々の世代には考えられないことだったが、今では川崎の大きなお祭として定着している。何か1つのことをやって、それを継続していくことが大事だと思う。

部会長 楽しめるイベントで人を集める。そういった場づくりをするという方向にまとまってきたと思う。

委員 運動がよい。メタボリックシンドロームの対策や高齢者の健康増進にもなる。

委員 ハロウィンが1回目はあまり期待されていなかったという話があったが、かわさき楽大師というイベントも同じで、大師地区の商店街を活性化しようと立ち上げたが、最初は商店街の人あまり賛成していなかった。しかし、今年でまだ3回目だが徐々に定着してきている。最初のうちは否定的な意見が多いこともあるが、継続することによって定着する。何かを実行しないと何も始まらないので、区民会議の中から何か始められるとよいと思う。

委員 シニアパワー部会なのだから、そういった企画をしたり、実行委員になったりすることにシニアパワーを活用する方法を考えるのだと思う。シニア世代を巻き込んだイベ

ントを1つ提案できればよいと思う。

委員 例えば、東扇島でマラソン大会を開催したとして、同時に写真展など別の催しを開催すれば、それがコミュニケーションにつながっていくと思う。

委員 例えば、東扇島東公園の基幹的広域防災拠点が開通する日に合わせて開催すれば、そのオープンセレモニーの予算が使えるのではないかと。毎年その日、あるいは近くの日曜日に開催するようにして継続していけばよいと思う。

委員 マラソンの提案があったが、私はホノルルマラソンに20数年参加しているし、以前に市内でマラソン大会を企画したこともある。マラソン大会は、道路を使うことや大勢のボランティアが必要なため、残念ながら企画倒れになってしまった。

マラソンの提案が最終的にどうなるかは今後の議論によると思うが、東扇島を利用し、マラソンを中心にしているいろいろなことを取り入れ、シニアパワーで実行していることが見えるように実施していけばよいと思う。

部会長 今日の部会で出た意見をまとめて、10月16日の全体会議で報告したいと考えている。

委員 マラソンを実行する場合、実行委員会を設置しなければならないと思うが、シニア部会だけでなく、区民会議全体でかかわらなければならないと思う。

部会長 区民と行政が協働で実施することになると思うが、行政ではなく、区民が主になって取り組まないと区民会議としての意味がないと思う。場合によっては相当大きなイベントになるかも知れないと思う。

委員 行政で実施の際に障害となるようなことを確認しておいて欲しい。

事務局 7区の中で海に面しているのは川崎区だけなので、東扇島を利用することは昨年度の審議テーマだった区のイメージアップにも関係していてよいと思う。東扇島東公園が整備され、基幹的広域防災拠点も完成するので、市としても臨海地区に人を誘導することを考えなければならない。例えば、東扇島でイベントを実施して人を集め、その中から地域で活躍してもらえる人を募り、地域コミュニティの充実につなげていければよいのではないかと。



委員 THINK（シンク）に映画のスタジオができた。エキストラを募集していて、扇島で撮影をしているが、マラソンなど市民が動いているものを入れた映画や物語をつくらせたいと提案してはどうか。せっかく映画の拠点があるのだから、活用したらよいと思う。

部会長 以上で議事を終了する。

（２）その他

事務局 ２ その他の議題は、事務局では用意していない。何かあれば提案して欲しい。

〔発言する者なし〕

４ 閉会

事務局 <シニア世代向けのイベントの紹介、タウンミーティング、第２回区民会議の開催、区ホームページでの会議録の公開、市政だより川崎区版への記事掲載を説明>

区長 <お礼を述べる>

午後 ８時３０分 開 会